

マエストロ・N. イエペスの「教え」に基づく テクニク・ノート講座

(アランフェス協奏曲への道)



10弦ギタリスト 宮本徳二

1975年、Maestro N. Yepes（イエペス）に師事して以来、マエストロ最期の時（1997年）まで、ごく身近に過ごし、レッスンを受け続けて習得した、彼の「教え」を中心にした講座です。

クラシックギター上達のための講座ですが、数々のマエストロの革新的な考え、及び技術をより正確に吸収するために、各指の基本的な動きを確認。そして、それを身につけ、より良く理解し、実践するためには大変重要なことですから、そこから始めることにします。この講座では、私の経験から、マエストロの教えをより理解・実践しやすくするために、噛み砕いたテクニク・ノートという形をとらせていただきます。

身につけること、それは体で憶えることですので不断の、そしてたゆまない練習が必須で、どうしても時間がかかります。但し、マエストロがおっしゃっているように「練習は『量より質』」に重きを置きましょう。そして、このイエペス・メソッドともいえる方法を忠実に続けられれば、ギターの上達は間違いのないと今までの経験からも確信しています。

最終目標はギター協奏曲（アランフェス協奏曲、ある貴紳のための幻想曲など）ですが、誰でも弾けるようになるとは言えませんが、熱心に良い練習をし続けていけば、多くの人が弾けるようになる可能性があります。

マエストロが練習曲集のレコード解説の序文に引用している、ある聖人の言葉『永遠に生き続けるがごとく、学ぶがよろしい』を忘れずに！！



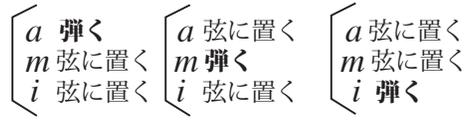
Index

1. 右手の練習
 - 1、1本指の練習
 - 2、2本指の練習
 - 3、3本指の練習
 - 4、*P*指の練習
 - 5、和音付き*P*指の練習
 - 6、*p,i*指の練習
 - 7、和音内のアクセント練習
 - 8、*pa,mi*での重音練習
 - 9、速い3度の重音
 - 10、ラスゲアードの練習
2. 左手の練習
 - 1、(半)音階練習
 - 2、スラー (Ligado)
 - 3、トリルの練習
3. プジョール作曲「熊ん蜂」、とともにトレモロの練習
 - 1、「熊ん蜂」のイエペスの運指
 - 2、トレモロ練習
 - 3、*a,m,i*3本指のスケール

1-1、1 本指の練習

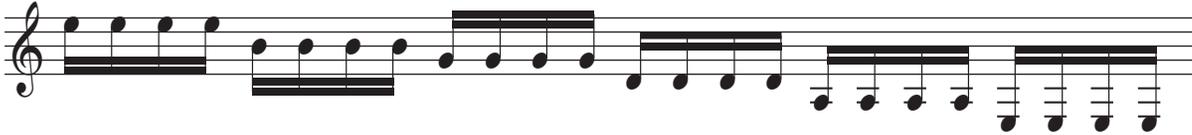
○ *a, m, i* 各指の独立性を得るために

a, m, i 各指を①、②、③弦上に置き、*a* だけ弾弦、*m* だけ弾弦、*i* だけ弾弦



○ *a, m, i* 各指で①弦から⑥弦まで弾き、①弦まで戻る

1. *a a a a a a a a a a a a*
2. *m m m m m m m m m m m m*
3. *i i i i i i i i i i i i*



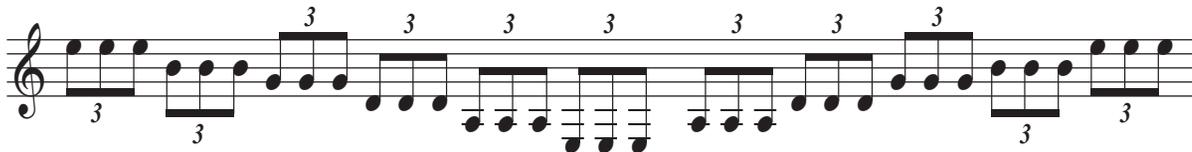
留意点

- ・右ひじの開閉
- ・指のみで弾弦する
感じをつかむ
- ・弾弦している指以外は、リラックスしているか確認

1-2、2 本指の練習

○ (*m, i*)、(*a, i*)、(*m, a*) のそれぞれの組み合わせの練習

1. *m i m i m i m i m i* -----
2. *a i a i a i a i a i* -----
3. *m a m a m a m a* -----

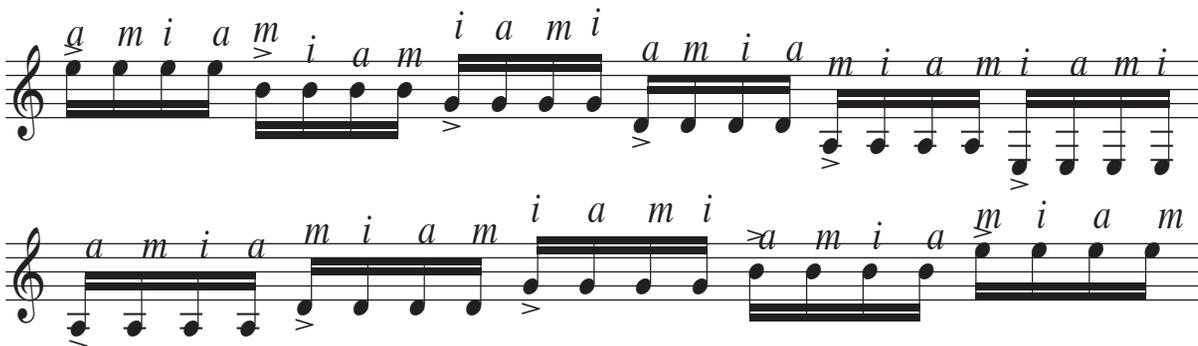


留意点

必ず各指交互に

1-3、3 本指の練習

○ 各弦で弾く最初の指が代わり、最終的には指が変わっていることに気がつかない位に、快速にスムーズになれば良い



留意点

各弦の最初に軽いアクセントを付け、アクセントを付ける指が変わることを意識する

○快速テンポで

a m i a m i a m i a m i
m i a m i a m i a m i a
i a m i a m i a m i a m

3本指で自由

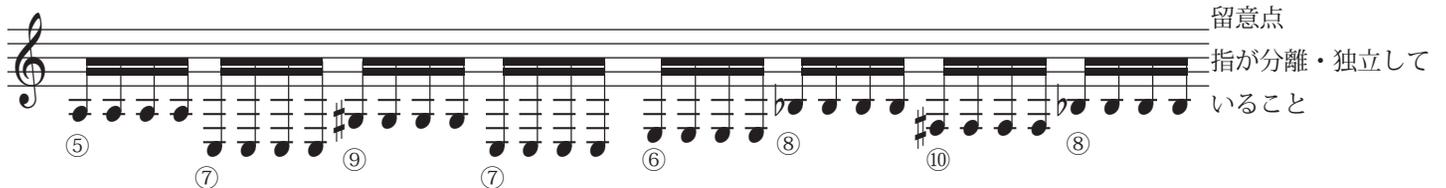
留意点
指が分離・独立して
いること



○アポヤンドのみの練習

○②③④⑤⑥⑦の往復練習も（10弦用）

1-4、*p*の練習



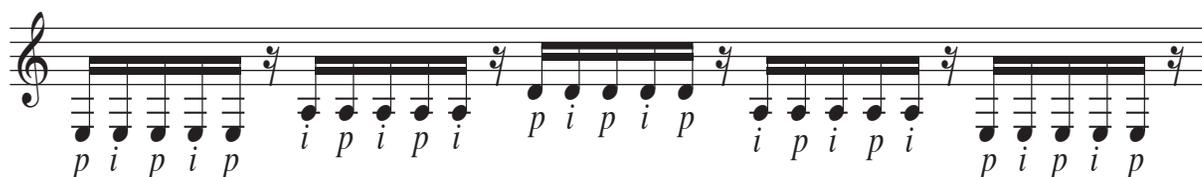
○*p*指のみで弾けるように *i, m, a* の3本を・左手で押えて・握って・フリーで

1-5、和音付き *p* の練習（⑤～⑩弦を的確に捉える）



○4拍（4分音符）、2拍（2分音符）、1拍（全音符）のそれぞれで練習

1-6、*p, i*の練習



○(*p, i*)の順、(*i, p*)の順、共に練習する

○(*p, i*)、(*i, p*) 速くするには *p* と *i* を離すのだが、どの位離すとやり易いかを自分で探す

よい例



p,iが近い



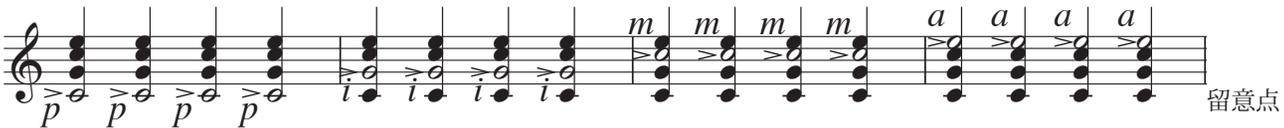
p,iの練習応用：2本の弦で



※複弦でのトリル (tr.) のように極めて速く弾く場合は、ピックで弾くイメージで

1-7、音内のアクセント (白抜ききの2分音符に)

(1)



留意点

- p指：指を立てる
- i指：タッチの方向
m寄りに
- m指：深く入れる
- a指：タッチの方向
ch寄り & m
指と離す

最初はp指のドにアクセント、次はi指のミに、次はm指のシに、最後はa指のミにアクセントを
ルネサンス期やバハなどのポリフォニー音楽を演奏する時に声部の描き分けにとって必須のテクニック

- (1) 4拍ごとを基本練習とし、
- (2) 2拍ずつ、(3) 1拍ずつと応用練習する

(2)

(3)



4音の和音ならCコードでなくてもよい

1-8、pa,miでの重音練習

○同弦上に2本の指を置いて弾弦する→フォーム感覚を身につける



それぞれ *pi* 開始も

練習する

m a m a

i p i p

m a m a

i p i p

m a m a

i p i p

○譜例 M. アルベニス 「ソナタ」

a m a m a m a m a m a

p i p i p i p i p i p i

○譜例 M. アルベニス 「ソナタ」

a m a m a m a m a m i a m i

p i p i p i p i p i p i

1-9、速い3度の重音

○譜例 F. カルリ 「第1 幻想曲」 poco Allegro より

ai ai ai ai

○譜例 J.ロドリゴ 「祈祷と舞踏」より

Musical score for J. Rodrigo's "Prayer and Dance" (「祈祷と舞踏」). The score is in 3/4 time and features a melody of eighth-note triplets. The first staff includes a dynamic marking of *p* and a downward arrow above the first triplet. The second staff continues the triplet pattern. The key signature has one sharp (F#).

○譜例 V.アセンシオ 「内なる想い (IV)」より

Musical score for V. Asencio's "Inner Thoughts (IV)" (「内なる想い (IV)」). The score is in 3/8 time. The first staff shows a melodic line with notes labeled *i*, *a*, and *m*. The second staff shows a more complex rhythmic pattern with notes labeled *i*, *a*, *m*, and *i*. A dashed line indicates a continuation of the pattern.

1-10、ラスゲアードの練習

○各一本で

Three staves of Rasgueado practice exercises. Each staff is divided into three sections labeled *i*, *m*, and *a*. Above each section are arrows indicating the direction of the strumming: up (↑) and down (↓). The first staff has arrows: ↑ ↓ ↑ ↓ ↑ for *i*; ↑ ↓ ↑ ↓ ↑ for *m*; ↑ ↓ ↑ ↓ ↑ for *a*. The second staff has arrows: ↑ ↓ ↑ ↓ ↑ ↓ ↑ ↓ for *i*; ↑ ↓ ↑ ↓ ↑ ↓ ↑ ↓ for *m*; ↑ ↓ ↑ ↓ ↑ ↓ ↑ ↓ for *a*. The third staff has arrows: ↑ ↓ ↑ ↓ ↑ ↓ for *i*; ↑ ↓ ↑ ↓ ↑ ↓ for *m*; ↑ ↓ ↑ ↓ ↑ ↓ for *a*.

留意点

深く、重たくな
らない

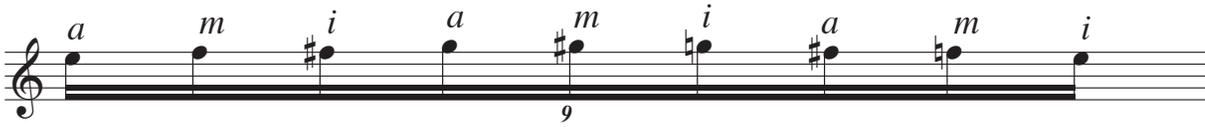
左手、右手のタイ
ミングを合わせる

2-1、(半) 音階練習

音階練習では、何指で始め、何指で終わるかが重要。選べるなら i 指で終わる

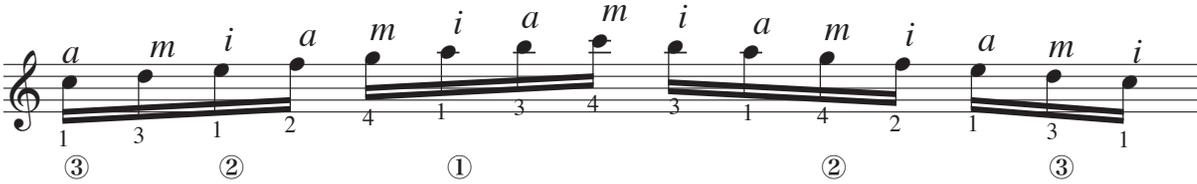
留意点

下りの2指、3指の
タイミングをあわせること



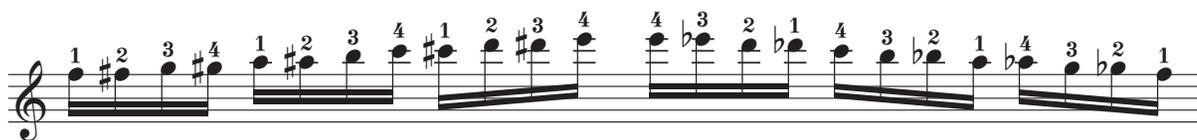
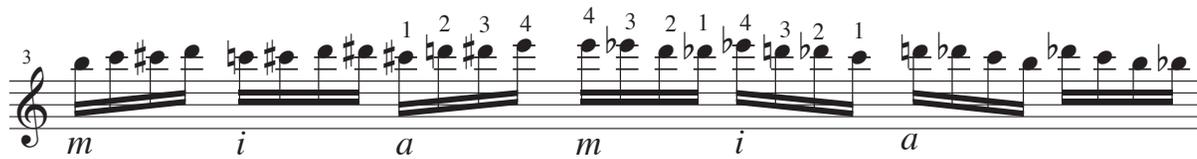
○速く、(m,i) (m,a) (a,i) (a,m,i) それぞれの運指で

○各音を3つつつ3連譜での練習も



○速く、(m,i) (m,a) (a,i) (a,m,i) それぞれの運指で

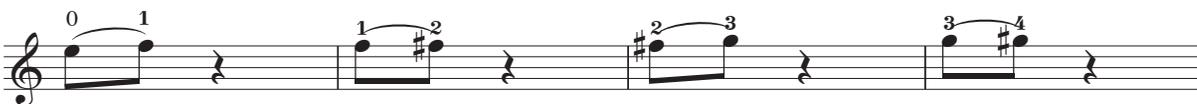
○右運指を守る！！



2-2、スラーの練習 (Ligado)

○ゆっくり、休みを入れて練習する。強く（呼吸 or 止めて）。

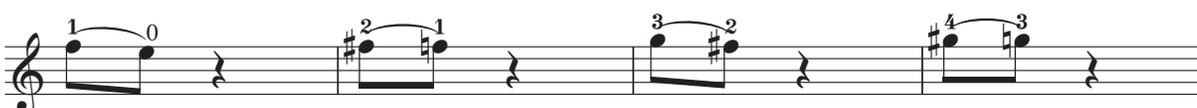
上昇スラー (0-1)(1-2)(2-3)(3-4)



上昇スラー (1-3)(2-4)



下降スラー (1-0)(2-1)(3-2)(4-3)



下降スラー (3-1)(4-2)

○応用、すべてトリルにしての練習もする

2-3、実際に弾くトリルの練習：5連譜で右指と左指のタイミングを合わせ、きれいに発音させる

留意点

アポヤンドで

左手、右手のタイミ
ングを合わせる重要
な練習

トリルの練習：低音付き

The image shows five staves of musical notation for trill exercises. Each staff consists of a treble clef staff with a trill and a bass clef staff with a bass note. The exercises are numbered as follows: 1-3, 0-1, 1-2, 3-4, and 2-4. Each exercise is followed by a double bar line with a slash through it, indicating the end of the exercise.

留意点

アルアイレで

バッハやヴァイスの
作品に有用

運動神経に関係してくるので、日々繰り返して行うのが肝要で、残念ながら年齢とともに運動神経的にも衰えてくるので、行い続けることが大事。出来るようになったら、それがいつでも出来るように、そして衰えがなるべく少なくてすむように行い続けること。

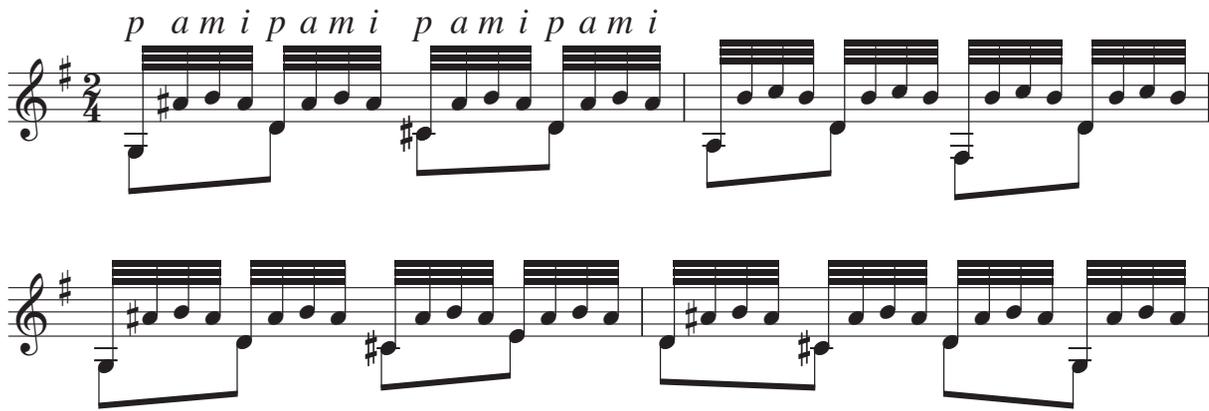
○譜例 D. スカルラッティ 「ソナタ K.34」より

The image shows two staves of musical notation for a trill exercise. The first staff shows a trill on a note with a bass note below it, followed by a trill on a note with a bass note below it. The second staff shows a trill on a note with a bass note below it, followed by a trill on a note with a bass note below it. The notes are marked with 'tr' and 'm i a'.

○譜例 S. ヴァイス 「組曲」サラバンドより

The image shows one staff of musical notation for a trill exercise. The staff shows a trill on a note with a bass note below it, followed by a trill on a note with a bass note below it. The notes are marked with 'tr'.

3-1、「熊ん蜂」のイエペスの運指



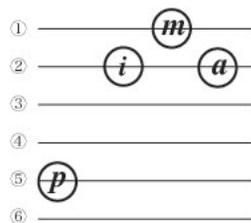
通常は *p,i,m,i* の運指で弾かれるが、*p,a,m,i* の運指をマスターすればより蜂の羽音の感じに近づき効果的である。また、他のあらゆるアルペジオやトレモロの上達にもつながるし、古典派の曲に置いてはアルペジオでなくても有効なテクニックとなることがある。

練習方法

p,i,m で弾かれるアルペジオを *p,m,a* で弾いて (*p,m,a*) のフォームを身につける



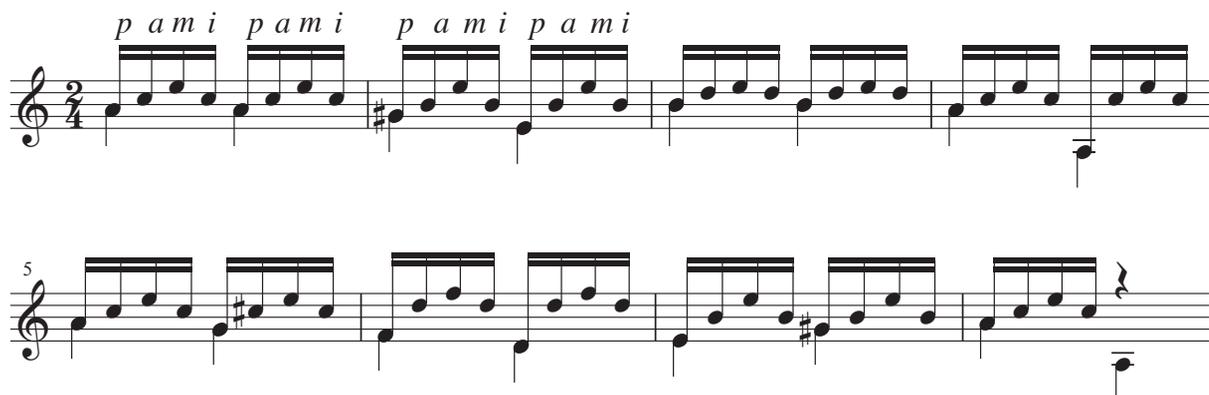
フォームを覚えるために、*i,a* を②弦上に置き、*m* を①弦において和音として弾き、*m* 指が前に出る感覚をつかむ



m が前に出るフォームを覚えてから、アルペジオ練習をする。アルペジオにした時、各指がちゃんと発音・正確に弾き切れているか、弦を正確に弾弦できているかが大事で、そのためにも各指1本指での練習が重要になる。

参考練習曲目

○譜例 アグアド／練習曲



○譜例 ケルナー／ファンタジア

p a m i p a m i p a m i p a m i

ロルダン／月の光

ターレガ（イエベス編）／グラン・ホタ

アセンシオ／あこがれ

3-2、トレモロ練習

最初に *a, m, i* を4連譜で、拍が変わるごとに軽くアクセントをつけて

ā m i ā m i ā m i ā m i ā m i ā m i ā m i ā m i

最初は短めで始め、
少しずつ長く&早く

アクセントをつけずに、平らに

a m i a m i a m i a m i a m i a m i a m i a m i

※フォーム

指を立て（手首を高く、前に出す）、弦をすくい上げる

a, m, i 各指が確実に弦を弾き切る

p a m i p a m i

p, i, m, a の順番で弾く練習は不用。運動生理学に反する。

①を *p, a, m, i* のトレモロで弾く時の、*p* 指と *i* 指がぶつからないフォームを基本的なフォームとする。*p* 指が②、③弦を弾く時もフォームが崩れないように注意。

手の甲が弾弦する時に（上下に）動かないこと。

フォームを固めて、各指が1音1音確実に発音できるようになってから、ダイナミックレンジ、音色を付ける応用練習に進むこと。

